

第4回環境部会

1. 日 時 平成25年3月13日(水) 10:30~13:00
2. 場 所 本会会議室
3. 出席者(順不同敬称略)
 - 会 長 三井所清典(芝浦工業大学/アルセッド建築研究所/東京)
 - 部会長 中村 勉(工学院大学/中村勉総合計画事務所/東京)
 - 副部会長 篠 節子(篠計画工房/東京) 澤地孝男(建築研究所/茨城)
 - 委 員 大野二郎(日本設計/東京) 河野 進(河野進設計事務所/東京)
 - 山田貴宏(ビオフォルム環境デザイン室/東京)
 - 糸長浩司(日本大学/神奈川) 宿谷昌則(東京都市大学/神奈川)
 - 辻 充孝(森林文化アカデミー/岐阜) 阿部弘明(空間デザイン/大阪)
 - 欠席者 山口克己(アルセッド建築研究所/東京)
 - 連合会 山中保教
 - 常務理事 木村行道
 - 事務局 山田隆一、高橋宏志、永田厚生、阪本 靖

4. 報告事項

- (1) 平成24年度住宅省エネルギー施工技術者講習(C講習)の実施状況および平成25年度実施計画について

事務局より以下の報告があった。

- ・B講習19回開催、512名の講師を育成
- ・C講習381回開催、受講者数目標11,000名に対し11,143名が受講
- ・次年度は設計者向け講習(B講習)、施工者向け講習(C講習)の二段構えで受講者数3万名を目標とする。

また、本年度受講者へのアンケートの結果、受講者は工務店における40~50代の施工関係者が多く、概ねテキスト、講義共にわかりやすく、修了考査も平易であるとの回答が寄せられている。

5. 議題

- (1) 本部会の具体的検討テーマと今後の進め方について

各委員より課題①~⑦の具体的取り組み案の説明があり、以下の意見が出された。

(各委員の意見)

①省エネ性能セミナー

- ・自律循環型住宅についても継続して実施されたい。
- ・省エネ改正基準の2020年度までの義務化を見据え、関連情報を集めたWEBサイトを作れないか。資料は無料でダウンロードできるもので対応したい。
- ・各支部で勉強会してもらえよう、どのような情報を流すのかを整理したい。
- ・連合会の狙いとして2020年に備え自ら勉強してもらえよう仕掛けとモチベーションの向上が継続できるよう、例えば初級向けに環境家計簿、中級向けに温熱計算などステップに応じた学習提案と小冊子も必要である。

②仮称：地域型環境住宅研究会

- ・伝統木造について連合会は啓蒙活動の旗を振り、宿谷先生をはじめとした講師を地域のセミナーに派遣する。とにかく実体験が効果的であり、実際に冬を身を持って感じることである。
- ・地域型環境住宅研究会の発足に向けて、4会（士会連、学会、JIA、日建連）の情報交換会での意見交換が必要。

③環境配慮契約法

- ・入札主義が壁になり、国レベルでは増えてきたが、地方自治体に進んでいない。発注全般に係る課題である。
- ・提案文書はほぼ同様の提案内容で、この段階では設計者の優劣が付けられず、結局大組織が有利となる。中小事務所は中々参加できない。
- ・環境配慮設計者の育成や提案書ひな形、ガイドライン等の作成も考えたい。
- ・実施事例、成功事例を調査し発表することで普及につながらないか。

④ストック改修

特に提案は無し。

⑤エコ・コミュニティアーキテクト等

- ・エコ・コミュニティアーキテクトとして ECOA（設計者）、ECOBI（施工者）の育成、認定、講座の開設。
- ・また、TTP への対応については検討しなくて良いのか。

⑥自然、再生可能エネルギーの普及

- ・自然エネルギー、再生可能エネルギーの活用促進のため、地域ごとに RE 普及センターを設けたい。
- ・この問題では建築士の勉強不足が顕著であり、建築士が PV の勉強をしてもらい、地域全体のことを考えて地域の産業界と共同した取り組みを行えればと思う。

⑦環境教育戦略

- ・住環境教育が始まって 15 年、次の 15 年でどう拡大させていくか。あわてて取り組んでもうまく行かないので、成果は見えづらいが一步一步重ねていくことである。
- ・はじめにエネルギーをたくさん使うことが快適とイコールではないことの認識があり、次に道筋を作る。その道筋にテキストなり小冊子が必要か。

以上の意見が出され、各委員よりアイデア、提案も出されたことから、今後の進め方について中村部会長、三井所会長、事務局で整理の上、活動方向案を示すこととなり、了承された。

（２）次回の部会開催について

①日時 5月15日（水）17：30～19：30

②場所本会会議室

以 上